

12. 法面保護工事

12-1 法面保護工（客土吹付・植生基材吹付）

（1）法面状況（吹付前）



留意事項

- 施工範囲の正面から撮影されていないので、全体の状況が把握できない。
- 法面勾配・法面状況がわかるようなアングルとする。
- 手前の撮影目的でない余分なものが写らないようなアングルで撮影する。
- 黒板が見づらいので手前において撮影する。

撮影方法

- 施工範囲の状況がよくわかる位置から撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 施工状況（法面勾配・法面状況）
- 施工規模

（2）法面清掃状況



留意事項

- 安全ロープを付けた作業状況がわかるようになっている。
- 法面勾配・法面状況がわかるようなアングルで撮影する。
- △ 浮石除去や法面整形を行う主たる作業状況を撮影するように留意する。

撮影方法

- 作業状況はもちろんのこと、清掃前後の状況がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容（浮土・浮石・雑物を除去する）を記入する。

12-1 法面保護工（客土吹付・植生基材吹付） （3）法面硬度の測定状況（硬度測定）



留意事項

- 全体の法面の地質状況がわかりやすい。
- 補助者の影で黒板が見えにくい。
- △土壌硬度計を用いた作業状況が確認できるようにアップの撮影もする。

撮影方法

- 測定状況がわかるようにアップも撮影する。
- 測定位置が全体のどこに位置するかわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 測定器具
- 測定結果を記入する。

（4）アンカーピン打設状況



留意事項

- 安全ロープを付けた作業員がアンカーピンを打ち込む状況がわかりやすい。
- 資材（ラス）や施工前・施工後の状況が確認できる。

撮影方法

- 打設にともなう作業資材や作業状況がわかるようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 資材名・規格を記入する。

12-1 法面保護工（客土吹付・植生基材吹付） （5）アンカーピン打設位置の確認状況



留意事項

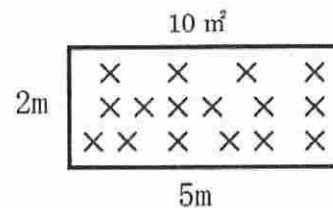
- 赤（主アンカー）、青（補助アンカー）がマーキングされてわかりやすい。
- リボンロッドを使用する場合は、たるませないように留意する。
- アンカー施工本数などリボンロッドの目盛、黒板が確認できるようにできるだけ正面から撮影する。

撮影方法

- アンカー施工本数がわかるように範囲を仕切る。
- 主アンカーと補助アンカーの区分がわかるようにマーキングする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 10㎡当りの本数を記入する。



（6）ラス重ね合せの確認状況



留意事項

- ピンポールの間隔で、重ね合せの幅が確認できる。
- リボンロッドのゼロ点を起点に合わせて実測寸法をわかりやすくする。

撮影方法

- ラスの重ね合わせ寸法が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

12-1 法面保護工（客土吹付・植生基材吹付） （7）客土吹付状況



留意事項

- 安全ロープを付け作業員がホースで吹き付けている作業状況がわかりやすい。
- 客土吹付前後の状況がさらにわかるように正面からの撮影も工夫する。

撮影方法

- 法面勾配・法面状況とともに施工前、施工後の状況がわかるようなアングルで撮影する。
- 作業内容がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 材料仕様（客土）
- 吹付厚さを記入する。

（8）法面状況



留意事項

- 施工範囲の正面から撮影されていないので、全体の状況が把握できない。
- 手前の撮影目的でない余分なものが写らないアングルで撮影する。

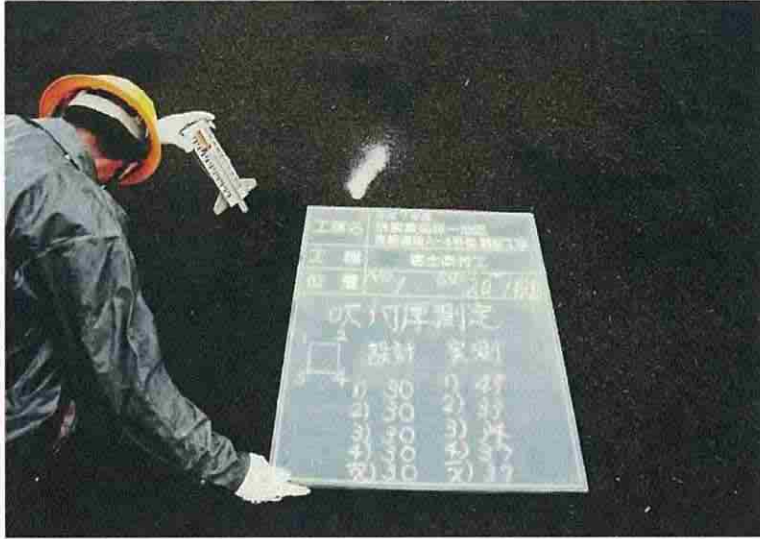
撮影方法

- 施工範囲全体の状況がよくわかる位置から撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 施工内容
- 施工規模を記入する。

12-1 法面保護工（客土吹付・植生基材吹付） （9）吹付け厚さの測定状況



留意事項

- デプスコアードを用いた測定状況や黒板の記入内容がわかりやすい。
- 測定孔の下層ラス張への規定のセットや吹付上面に定規をアップしている状況がわかりにくいため、測定箇所のアップも撮影する。

撮影方法

- 出来形寸法（施工厚さ）が確認できるように、測定部の形状を整形する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

12-2 法面保護工（吹付枠）

（1）法枠組立作業状況



留意事項

- 安全ロープを付けた作業員の手元の作業状況がわかりやすい。
- 法面勾配や地質状況も写され、法枠工の必要性がわかりやすい。
- 黒板が確認できるようにできるだけ正面から撮影する。

撮影方法

- 法枠を組立てている作業状況とともに、周囲の法面勾配などの状況がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容を記入する。

（2）アンカー作業状況



留意事項

- 使用器具や安全ロープを付けた作業状況がわかりやすい。
- 全体の施工範囲や作業の連続性がわかりやすい。

撮影方法

- 作業状況はもちろんのこと、全景もできるだけ入れて、作業箇所が特定できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 施工内容
- 施工規模を記入する。

12-2 法面保護工（吹付砕）

(3) 枠組検測状況（梁間隔）



留意事項

- リボンロッドがたるんでいる。
- ピンポールを用いて測定範囲がわかるようにする。
- 正面から撮影し、目盛が確認しやすいようにする。

撮影方法

- 枠組寸法が確認できるように撮影する。
- リボンロッドを使用する場合は、たるませないように留意する。
- ピンポールなどを用いて、測定範囲がわかるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

(4) 枠組検測状況（梁断面）



留意事項

- 実測寸法の目盛が手に隠れて読めない。
- 正面から撮影し、目盛が確認できるようにする。
- 鉄筋にペイントすることは、付着に影響を与えるため避ける。

撮影方法

- ロッドを組合せて用いるなどの方法で、枠組寸法が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 施設寸法・実測寸法を記入する。

12-2 法面保護工（吹付枠）

（5）法枠吹付作業状況



留意事項

- 安全ロープを付けた作業員がモルタルを吹き付けている作業状況がわかりやすい。
- モルタル吹付前後の状況がさらにわかるように正面からの撮影も工夫する。
- 黒板を入れて撮影する。

撮影方法

- 法面勾配、法枠組立状況とともに、施工前、施工後の状況がわかるようなアングルで撮影する。
- 作業内容がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 材料仕様（モルタル）
- 吹付厚さを記入する。

（6）吹付枠（完了後）



留意事項

- 施工範囲や法枠の間隔の状況がわかりにくい。
- 施工範囲全体のどこに位置するのかわかりにくいので、正面から撮影する。

撮影方法

- 施工後の全体の状況がよくわかる位置及びアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 施設状況を記入する。

12-2 法面保護工（吹付砕）

(7) 法枠検測状況（梁間隔）



留意事項

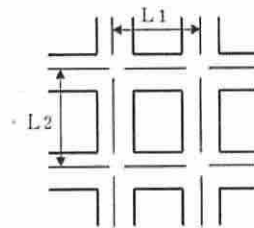
- 黒板は正面に向けよく読めるようにする。
- リボンロッドに張力を加える。
- 梁間隔は右略図のとおり、梁の芯々で測定すべきである。
- ピンポールを用いて測定範囲がわかるようにする。

撮影方法

- 法枠寸法が確認できるように撮影する。
- リボンロッドを使用する場合は、たるませないように留意する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。



(8) 法枠検測状況（梁断面）



留意事項

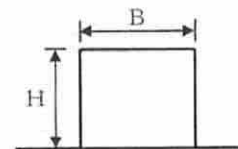
- 黒板の記入内容がわかりやすい。
- 黒板は正面に向けて読めるようにする。
- 高さの実測寸法の目盛にあて木・ピンポールなどが無いので確認できない。

撮影方法

- ロッドを組み合わせて用いるなどの方法で、法枠寸法が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。



12-3 法面保護工（コンクリート吹付・モルタル吹付）

(1) モルタル吹付状況



留意事項

- 作業範囲に対してカメラの位置を正面とし、モルタル吹付の状況がわかり、全体が把握できるように撮影する。
- 黒板を入れて撮影する。

撮影方法

- 使用器具はもちろんのこと、施工前・施工後の状況がわかるようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 吹付厚・材料を記入する。

(2) 吹付厚さの測定状況



留意事項

- 黒板の断面図で測定厚さがわかりやすい。
- 補修後も測点がわかるようにマーキングしている。
- 黒板を正面に向けて撮影する。

撮影方法

- 出来形寸法（施工厚さ）が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置（検査孔番号）
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。

